

白糠孵化場の想い出

會 田 庄 松

昨年、白糠事業場外四事業場の存置と、水源完備の対策について、適切な解決策の計畫樹立と、実施方を陳情したが、これが結果的には災害復旧費として十萬円の融資が決定されたのみであり、それも殆んど外形的な孵化槽とか孵化室の修理に当られてをり、最も重要な水源完備については別段これと言つた解決策が打出されていなかった。

これよりさきに、地方協力会では過去三ヶ年に亘る失敗を種々検討してをり、なんとかこれが解決を計るべく孵化事業に對する熱意は益々強固で、毎日の様に現地調査がくりかえされていた。

孵化事業を擔当している私は、二十七年の十勝沖地震の災害と、二十八年数十年來の寒波襲來と加えて水源の湧水が、激減二十九年は湧水量減少により、主水源を河水に求めたが、低水温により、ことごとく全滅の被害を受け、精神的に全く参つていた。一時はこの悲運にこの職を放棄する迄に至つたが、上司の温情ある處置にその職に止つたものゝ孵化事業には自信を失

つていた。水源の確保について湧水地のボーリング或は孵化用水の暖房裝置等私なりに考へていたが、相當の工事費もかゝり、簡單には実施し得ない状況にあつた。

かくしている中に二十九年度の鮭捕獲採卵も間近に迫り、毎日憔悴していたが、関係者の熱心な調査の結果、ようやく暗渠による集水を結論づけられており、これに水源を求めることに意見の一致を見ていたのである。

しかし私自身正直に言つて或程度の危懼を持つていた。それは暗渠の知識がないので、暗渠によつて果して如何程の水が集水出來得るかと言ふことである。私には實際に土地改良により暗渠を設置した場所の水量、水温等を聞いた結果、水温は或程度を保つて間斷なく出水すること、水温は湧水と同様に五・六度の温度を維持することが出來ることの結論をうるものが出來たので、次第に確信を持つようになつたが、未だ不安の念は去らなかつた。

然し、今のところこれ以上の方法も見当らず、又これよりの方法しか残つていなかった。今度失敗したらと考えると、これに一縷の望をたくすだけであつた。

早速土地の状況より暗渠の設計がなされた。普通の暗渠と異り、集水が目的であるので、幾分変つた方法が用いられた。工事が進捗するに従つて各個處から水が湧いてきたので、最後の方法も成功出来るのではないかと思ふ希望が持たれるようになった。

やがて工事も完成した。水量は実に一石五斗と言う豫想外の集水に成功水温も湧水と同温の七度二分と言う好成绩を収めた。しかしまだ喜ぶのは早い、完成當時には最も水が出ることは今迄の湧水池の状況から明かなので、これからの最渇水期の一、二月の変化が豫断を許さない状況である。(集水面積約四反、工事費約二十万円)

その後刻々と水量が減つたが、十二月中旬以降は水量六斗水温最低五度の確保して変化がないので、八分通りの成功を収めたわけである。

既に殆んど発眼を完了する迄に至りこのまゝの状況が続けば九五%の孵化成績を擧げることが出来る見透しである。(暗渠水が激減しても河水が利用出来るので)

思えば、過去三ヶ年苦闘の連続であり、時期になれば生き物を扱う我々でなければわからぬ苦勞を味うわけだが、孵化事業を擔當して初めて明るい新春を迎えることが出来た。苦難を乗り越えただけに、そのよこびも亦大きい。

尙、これが解決に当られた関係者の御熱意と御努力に對し満腔の敬意を表すると共に、白糖事業場主任北川技官の日夜の御奮闘並に十勝支場長の御指導に感謝する次第である。

暗渠水の孵化用水利用は、全道でも最初と思う。暗渠水の水质の關係から全然行はれていないが、これが結果については事業場北川技官と協力して後程データを取纏め詳細に發表する豫定である。

(白糖水産技術普及員)

×

×

×

×

×

×